第2回ビジョンゼロ・サミット・ジャパン開催決定

～ニューノーマルにおける安全・健康そしてウェルビーイング～

ウェルビーイング社会実現へ向け、ビジョンゼロを推進する労働安全衛生および協調安全技術分野の世界的専門家、
グローバル企業のリーダーたちが登壇いたします。

サミット・16セッションのチェアパーソン

Switzerland
Bernd Treichel
INTERNATIONAL SOCIAL SECURITY ASSCOCIATION (ISSA)

Denmark
Hans-Horst Konkolewsky
INTERNATIONAL ORP FOUNDATION

Finland
Tommi Alanko
FINNISH INSTITUTE OF OCCUPATIONAL HEALTH (FIOH)

Japan
妹尾 義樹
国立研究開発法人
産業技術総合研究所

Japan
梶屋 俊幸
IECEE／
The Institute of Global Safety Promotion

Japan
河田 孝志
清水建設株式会社

Malaysia
Mohammed Azman bin Dato
SOCIAL SECURITY ORGANIZATION OF MALAYSIA

Japan
北條 理恵子
独立行政法人
労働者健康安全機構
労働安全衛生総合研究所

South Africa
Ockert Dupper
INTERNATIONAL LABOUR ORGANIZATION (ILO)

United Kingdom
Alan Stevens
INSTITUTION FOR OCCUPATIONAL SAFETY AND HEALTH (IOSH)

Japan
中坊 嘉宏
国立研究開発法人
産業技術総合研究所

Japan
清水 尚憲
独立行政法人
労働者健康安全機構
労働安全衛生総合研究所

Canada
Rene Leblanc
INTERNATIONAL OCCUPATIONAL HYGIENE ASSOCIATION (IOHA)

Poland
Magdalena Wachnicka-Witzke
AGRICULTURE SOCIAL INSURANCE FUND (KRUS)

Japan
谷川民生
国立研究開発法人
産業技術総合研究所

Switzerland
Manal Azzi
INTERNATIONAL LABOUR ORGANIZATION (ILO)

主催：Global Coalition for Safety and Health at Work―Task Group on VISION ZERO at Enterprise Level
（GC：労働安全衛生グローバル連合―VISION ZERO推進タスクグループ）
一般社団法人 セーフティグローバル推進機構（IGSAP）
共催：国立研究開発法人　産業技術総合研究所（AIST）
独立行政法人 労働者健康安全機構・労働安全衛生総合研究所（JNIOSH）
後援：厚生労働省　経済産業省
一般財団法人日本規格協会（JSA）中央労働災害防止協会（JISHA）一般社団法人日本電気制御機器工業会（NECA）
一般社団法人日本ロボット工業会（JARA）FA・ロボットシステムインテグレータ協会（SIer協会）
一般社団法人ファインバブル産業会（FBIA）
（2021年10月時点）

Safety
Health
Well-being

VISION ZERO SUMMIT JAPAN 2022

WEB開催

2022年5月11日(水)～13日(金)

2019年、第1回ビジョンゼロ・サミットがヘルシンキで開催され、大きく前進しました。
その後、世界は大きな変化の渦中に入っています。
社会・企業が抱えるさまざまな課題に、VISION ZEROが示す解決策とは。
2022年、世界へ向けて日本から
安全(Safety)・健康(Health)そしてウェルビーイング(Well-being)を発信します。

https://japan.visionzerosummits.com/ja

（お問い合わせ）
一般社団法人
セーフティグローバル推進機構
The Institute of Global Safety Promotion
〒532-0004 大阪市淀川区西宮原2丁目7番53号　Marutaビル 8階
TEL: 06-6399-1211

202110-10A

VISION ZEROの実践的アプローチで
働く人の安全・健康そしてウェルビーイングを実現

VISION ZERO

Safety.Health.Wellbeing.

VISION ZERO 宣言のすすめ

安全・健康そしてウェルビーイングの実現へ

ウェルビーイングの追求、サスティナビリティな社会実現に
働く環境からアプローチするVISION ZERO
従業員の満足度と企業価値を向上し
社会経済ビジネスに大きなプラス効果をもたらします

VISION ZERO

Safety.Health.Wellbeing.

VISION ZEROとは、働く環境における安全・健康そしてウェルビーイング実現を追求する新手法です。

◆なぜ今、VISION ZEROなのか。

労働災害による経済損失〜

毎日、6300人もの人々が労働災害または仕事に関連した疾病により死亡し、その数は毎年230万人以上になります。
また毎年、3億1700万件もの事故が職場で発生しています。このような日々の不幸に関する人的コストは莫大であり、貧弱な労働安全衛生慣行による経済的負担は各年の世界全体の国内総生産の4%に相当しています。(国際労働機関・HP報告より)

企業のリスク回避と価値向上〜

安全と健康への働く環境・条件を整えることは、企業にとって最も大切な資産である従業員の身体と精神の健康バランスを守り、モチベーションの向上、ディーセントワークを生み出すことになります。
それは、企業のリスク回避、製品の品質・サービス向上につながり、顧客満足の上昇、企業価値の向上へと繋がり、良好な循環が生まれ、社会・経済・ビジネスに大きなプラスとなります。

◆VISION ZEROは、経済効果を生み出します。

安全、健康への投資による経済効果〜

予防施策のROI(投資回収率)を国際的に調査すると、安全と健康に1ドル投資した場合、2ドル以上もの経済効果が生まれビジネスにとってもプラスになることが実証されています。

VISION ZEROの三要素

INTERNATIONAL SOCIAL SECURITY ASSOCIATION (国際社会保障協会／ISSA)が提唱するVISION ZEROのコンセプトは安全・健康・ウェルビーイングの3つの次元で、職場における事故と疾病を予防する革新的なアプローチであり、あらゆる企業・産業に恩恵をもたらします。

❖ウェルビーイングとは
個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念のこと。(厚生労働省)

◆トップのコミットメント「リーダーシップ」の発揮でVISION ZEROを推進

安全・健康そしてウェルビーイングの向上には、必ずしもコストかかかる事だけではありません。リーダーが重要性を認識し、信頼関係の下、オープンなコミュニケーションができる雰囲気作りをすることが大切です。

VISION ZEROの実践・推進を図る『7つのゴールデンルール』とは

1. リーダーシップをとり、コミットメントを示しましょう。
   リーダーシップの質が重要。自ら模範を示す。透明性の高い経営文化。
2. 危険源を同定し、リスクをコントロールしましょう。
   リスクアセスメントは、予防措置をとるための重要な手段。
3. ターゲットを定めてプログラムを作成しましょう。
   明確な目標と日程。目標の達成状況を定期的に共有する必要がある。
4. 労働安全衛生体系を整備しましょう。
   労働安全衛生体系の整備により、生産ダウンタイム、品質問題が減る。
5. 機械、設備、作業エリアの労働安全衛生を確保しましょう。
   非常停止作業でのリスクが事前に評価されていること。
6. 従業員の資格を向上し、能力を開発しましょう。
   作業する人が十分な技能を持ち、訓練を受けている事が重要。
7. 人材に投資し、参加を通じてやる気を高めましょう。
   従業員を動機付けることは、経営者にとって最も重要な責務。

◆VISION ZERO推進へのメッセージ

VISION ZEROは多くのグローバル企業に採用され世界的に勢いがあります。職場のウェルビーイングは企業の競争力、財務実績、評価に影響を与えます。VISION ZEROを今すぐ始動することが、雇用者と従業員に大きな利益をもたらすのです、積極的な参加を歓迎します。

Tommi Alanko
フィンランド労働衛生研究所 ディレクター／Vision Zero Forum 推進者
Global Coalition for Safety and Health at Work 企業推進タスクグループ・リーダー

企業にとって「安全」は、企業の持続的発展、成長に不可欠な要素です。働く人の安全・健康・ウェルビーイングを目指すことが企業価値を高め、より良い社会成長につながります。VISION ZERO宣言から、7つのゴールデンルールの実践が、ウェルビーイング実現への近道となるでしょう。

向殿 政男
明治大学名誉教授
セーフティグローバル推進機構　会長

「VISION」は、私たちの長期にわたる大きな願いです。「ZERO」はターゲットではありません。労働災害・疾病などは、適切な業務設計、計画、手法、実践を通じて予防可能であるという 認識を示したものです。

▶▶▶VISION ZERO宣言のすすめ◀◀◀

VISION ZEROを実践するには、まず企業トップ・経営者の方々が積極的に取り組む意欲を示すことが大切です。
「VISION ZERO宣言」を掲げ、企業内の多様な部門と積極的な参加・貢献を促していきましょう。
「宣言」は企業姿勢を社内外に強く発信することになります。

「宣言書」を発行します。
企業ホームページ・会社案内などで公表頂けます

宣言はセーフティグローバル推進機構のホームページから申請書をダウンロードしお申し込み下さい

https://institute-gsafety.com/vision-zero/#declaration

併せてVISION ZERO キャンペーンへの登録をお勧めします。登録は以下HPより
http://visionzero.global/ja/join-us

VISION ZERO 宣言 ＋ VISION ZERO キャンペーン パートナー登録 issa

VISION ZERO キャンペーンパートナーには すでに世界で1万以上の企業・団体が登録しています

ビジョンゼロの世界の動き

2014年　誕生
ドイツ開催の「世界労働安全衛生会議」でゼロアクシデントを目指し「VISION ZERO」が、初めて提唱されました。
ゼロアクシデントの考えは、日本で1973年中央労働災害防止協会がスタートしたゼロ災運動に由来します。

2015年　VISION ZERO FUNDの設立
G7ドイツサミット及びG20閣僚会議の中で、発展途上国における労働安全衛生への対策を、国家レベルで行うVISION ZERO FUNDの設立も発表され、国際労働機関(ILO)が主導的役割を担います。

VISION ZERO FUND

2017年 VISION ZERO キャンペーン開始
国際社会保障協会(ISSA)により、企業・団体レベルのパートナー登録制度のVISION　ZEROキャンペーンがスタートし、世界各国の主要企業も参加を始めました。

issa

2018年 日本でもVISION ZEROが本格スタート
日本では、セーフティグローバル推進機構(IGSAP)が中心となり、普及を目指すと共に、新しい安全への概念・協調安全(Safety2.0)と融合させ、国際連携し VISION ZEROを推進することを宣言しました。

2019年 第1回ビジョンゼロ・サミットがフィンランドで開催
欧州を始めとし全世界の30カ国から、働く人の安全、健康、ウェルビーイングを推進する国際機関、行政、企業の経営者、安全衛生担当者、大学の研究者ら約200名が参加しました。
日本からは、向殿政男／明治大学名誉教授・IGSAP 会長を始め８名が講演を行い、日本の様々な取り組みに対して世界から注目を集め、第２回サミットの日本開催が決定されました。

2019年 Global Coalition for Safety and Health at Workの設立
国連の専門機関のひとつである国際労働機関（ILO）が主導し第１回サミットを機に新たに Global Coalition for Safety and Health at Work が設立され、よりグローバルかつハイレベルでVISION ZEROを推進していくことになりました。

Global Coalition for Safety & Health at Work

2022年 第2回ビジョンゼロ・サミット・ジャパン 日本からオンライン開催の予定

持続可能な社会へと世界が加速する中、ウェルビーイングの実現を目指し、第2回サミットは日本開催が決定しています。サミットはオンライン開催となり世界へ向けWEBライブ中継の予定です。

Safety Health Wellbeing
VISION ZERO SUMMIT JAPAN 2022